

度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業
分担研究報告書 令和元年度（平成 31 年度）

分担研究課題：「医療的ケア児の育児上の課題を把握できる項目を検討するための文献的考察」

分担研究者：荒木 暁子（公益社団法人 日本看護協会）

研究協力者：佐藤 奈保（千葉大学大学院）、伊藤 隆子（順天堂大学）

【研究要旨】

障害福祉サービス等の報酬における医療的ケア児の判定基準確立へ向け、日本の障害児に対する虐待とその周辺リスクを評価・スクリーニングする客観的な指標を明確にするために文献レビューを行い、外来で使用できるチェックリスト案作成の準備をする。

文献検討では、虐待とその周辺リスクに関する要因が、子ども、母親と家族の 3 側面で整理された。子どもの特徴には、身体的な状態、日常生活行動に関する問題、特有の行動や反応があった。母親の特徴は、母親の状況と行動に分類され、前者には健康問題、身体の不調や障害などがあり、後者には子どもへのアグレッシブな言動、受診の中断、支援を受け入れないなどがあった。家族の特徴は家族形態、家族の状態や関係性などがあった。これらの虐待リスクに関連する要因は複合的に生じており、プライマリーヘルスの場で医療福祉の専門職がこれらのリスクをアセスメントすることが求められる。

A. 研究目的

障害児を育てる家族は様々な育児上のリスクをはらんでいる。特に、虐待やネグレクトのリスクは障害児の生命の危機に直結するため、様々な場で専門職がそのリスクを把握することが必要である。

目的：日本の障害児に対する虐待とその周辺リスクを評価・スクリーニングする客観的な指標を明確にするために文献レビューを行い、外来で使用できるチェックリスト案作成の準備をする。

B. 研究方法

1. 対象文献

日本における現状を把握するために医学中央雑誌 Web 版を用い、過去 10 年間の文献（2008～2018 年）を対象とした。先行研究を参考に、キーワードは、障害児とその関連用語、虐待とその関連用語（育児困難、養育困難、養育拒否、不適切な育児、マルトリートメント、虐待予備軍、ハイリスク家庭、気になる家族、虐待的環境、虐待的育児態度、虐待的育児行為、気になる親子、要保護、要支援、特定妊婦）、家族とした。その

結果、「障害児とその関連用語」×「虐待とその関連用語」×家族 93 件がヒットした。

これらの文献のうち、障害児、親及び家族の状態・状況について明記されている原著論文、および、事例や解説においても状況が明記されているものは採択し計 24 件であった（表 1）。

2. 分析方法

主な分析項目は、論文タイトル、掲載誌名、発行年、著者名・所属、研究デザイン、結果を項目とした。結果については、虐待に関する先行研究を参考に、「子どもの状態」「母親の認識と行為」「家庭の状況」の 3 側面にかかわる記述内容を抽出した。シートを作成し研究者それぞれで分析した。個々の研究者が独立して分析を進めたのち、別の研究者が内容を点検、照合することにより信頼性を確保した。

「子どもの状態」「親の認識と行為」「家庭の状況」については、データを抽出しコード化し、意味内容の共通性・相違性により複数データをまとめ、サブカテゴリーとした。

C. 研究結果

1. 論文・記事の特徴

1) 論文の発行年数および掲載誌

論文・記事の発行年は、2009年1件、2010年2件、2011年4件、2012年2件、2013年2件、2014年2件、2015年2件、2016年6件、2017年1件、2018年2件であった。看護系学会誌4件、その他の学会誌14件、大学紀要やジャーナル3巻、その他雑誌3件と、看護系以外の学術誌のものが多かった。

2. 結果

結果から抽出された障害児の虐待に関連する子どもの状態、母親の認識と行為、および、家族の状況は以下の通りである。

1) 子どもの状態

子どもの状態は、[子どもの身体的な状態]、[日常生活行動に関する問題]、[特有の行動や反応]があげられた。このうち、[日常生活行動に関する問題]には、不規則な睡眠リズム、強い偏食などの、家族の日常生活に影響を及ぼす子どもの特徴や、言語発達や認知発達の遅れ、特定のひとしか関わりが持てないといった、親子のコミュニケーションの難しさにつながる内容が含まれた。また、子どもに強いこだわりや過敏さ、自傷行為などの[特有な行動や反応]があることは、親が子どもとの関わりに困難を抱えるとともに、日常生活の中で子どもから離れることが難しい状況も生んでいた。

2) 母親の認識と行為

母親の特徴は、[母親の状況]と[母親の行動]に分類された。[母親の状況]には、健康問題や身体の不調、母親自身に発達障害や知的障害があることがあげられ、うつや不安障害といった **mental health problems** を合併している場合には、ネグレクトの割合が高まっていた。また、子どもの世話や家族役割遂行に費やす時間が長く、日常生活において時間の利用が制限されること、コミュニケーションスキルに問題があり医療者などと会話が成立しない様子が挙げられた。

[母親の行動]では、子どもに対し攻撃的な行動や言動がある、子どもについて否定的な表現を

する、訓練やトレーニングを必要以上にやらせるなどとともに、受診の中断や受診予定日に来ないといった医療ネグレクトにつながるものが含まれた。また、支援を求めない拒むなどの、サポートを受け入れない様子もみられた。

3) 家族の状況

家族の状況は、[家族形態]、[家族員の状態]、[家族員の関係]に分類された。このうち、家族員の状態には、障害児以外に介護が必要な家族員がいること、障害児のほかに世話が必要な発達段階のこどもがいること、配偶者に健康問題があることなどが含まれた。家族員の関係については、母親から他の家族員に関する話が聞かれないこと、または他の家族員について話す内容が否定的であることが含まれた。

事例には、SES（社会経済状態）、子どもの状態、家族の認識や行動、家族の状況（シングルペアレント、離婚など）が複合的に重なる要因となり、虐待や不適切な療育のリスクとなっていることが示された。特に、いくつかの文献では、親の精神障害、攻撃的な行動が障害児の不利な状況を引き起こす原因となっていること、子どもの日常生活リズムの不規則性が家族全体の日常生活の困難をもたらす不適切な育児行動を引き起こすことが示唆されていた。

よって、調査項目としては、子どもの側面では「生活リズムの乱れ」、親の側面では「離婚」「シングルペアレント」などの客観的な状況を組み入れてはどうかと提案した。

3. 今後への示唆

障害福祉サービスは、計画相談により、上記に示されたような親の要因や家族の状況を踏まえて判定がされていると思われるが、申請による情報のみならず、必要なケースにサービスを届ける必要がある。そのためにも、この結果が、明らかな指標と基準に基づく判断の一助となることを期待する。

D. 健康危険情報

なし。

E. 研究発表

Akiko Araki, Naho Sato, Ryuko Ito, The Objective Factors of Maltreatment Against Children with Disabilities in Japan: The Literature Review (Poster), The 14th International Family Nursing Conference, Washington D.C. Aug. 13-16, 2019

F. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

<参考文献>

1) 岡本光代, 山田和子: 子ども虐待を含む虐待周辺擁護の定義に関する文献検討, 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要, Vol.6, 1-7, 2010

令和元年（平成31年）度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業
障害福祉サービス等報酬における医療的ケア児の判定基準確立のための研究

表1. 対象文献一覧			
A2:	タイトル	著者（所属）	出典
1	障がい児をもつ母親の養育態度への影響要因	関 睦美(福井医療短期大学 看護学科), 長谷川 美香, 出口 洋二	家族看護学研究(1341-8351)23巻2号 Page128-139(2018.02)
2	アスペルガー障害児の特異的行動に対する母親の認知的変化	伊藤 文子(恩賜財団済生会支部新潟県済生会三条病院)	新潟看護ケア研究学会誌(2188-9864)4巻 Page1-13(2018.03)
3	重症心身障害児を持つ親の離婚	小川 千香子(名古屋大学 大学院医学系研究科小児科学), 三浦 清邦, 伊藤 祐史, 城所 博之, 平川 晃弘, 根来 民子, 夏目 淳	日本小児科学会雑誌(0001-6543)121巻3号 Page563-570(2017.03)
4	在宅療養児を抱える母親の介護負担感に関連する要因と軽減を目指した支援	羽山 晶紀(九州大学病院 看護部), 木村 一絵, 松浜 留以, 山田 真理子	子どもと女性の虐待看護学研究(2188-4714)3巻1号 Page54-68(2016.06)
5	障害のある子どもをもつ親のメンタルヘルスの実態 「保護者のためのこころのケア相談」における語りの分析から	一瀬 早百合(田園調布学園大学)	田園調布学園大学紀要(1882-8205)10号 Page199-210(2016.03)
6	香川県における子育て支援プログラム導入の試み「前向き子育てプログラム(トリプルP)」の有用性の検討	鈴木 裕美(香川大学 医学部公衆衛生学), 依田 健志, 西本 尚樹, 神田 かなえ, 平尾 智広	地域環境保健福祉研究(1343-9286)19巻1号 Page25-32(2016.12)
7	発達障害児における不適切な養育 母親の帰属と感情の影響	中谷 奈美子(金城学院大学)	心理臨床学研究(0289-1921)34巻3号 Page269-280(2016.08)
8	肢体不自由児施設に入所している被虐待児の追跡調査	下山田 洋三(愛徳医療福祉センター 小児科), 米山 明, 長瀬 美香, 坂井 恵	子どもの虐待とネグレクト(1345-1839)18巻1号 Page100-105(2016.05)
9	児童発達支援事業を利用する児の母親の育児負担感とその影響要因	関 睦美(福井医療短期大学 看護学科), 長谷川 美香, 出口 洋二	日本看護学会論文集:在宅看護(2188-6474)46号 Page47-50(2016.05)
10	広汎性発達障害児の保護者が示す子どもを叩く行動の変容 行動記録を用いたカウンセリングの効果の検討	岡村 章司(兵庫教育大学 大学院特別支援教育専攻), 渡部 匡隆	特殊教育学研究(0387-3374)52巻5号 Page369-379(2015.02)
11	【外来で遭遇する児童虐待】 障害児虐待の現状と予防と対応について 障害児の育ちと家族を支える療育機関の関わり	米山 明(心身障害児総合医療療育センター 小児科)	外来小児科(1345-8043)18巻1号 Page68-75(2015.03)
12	肢体不自由児施設の専門職が経験する被虐待児支援における困難の構造	大橋 麗子(岐阜大学 医学部看護学科)	子どもの虐待とネグレクト(1345-1839)16巻1号 Page68-
13	在宅重症心身障害児虐待に対する訪問看護介入の実際と課題	西 留美子(共立女子大学 看護学部地域在宅看護学), 田口 理恵[袴田]	共立女子大学看護学雑誌(2188-1405)1巻 Page9-16(2014.03)
14	知的障害児の母親のコミュニケーション能力が育児負担感と心理的マルトリートメントに与える影響	李 仙恵(両備介護研究所), 朴 志先, 中嶋 和夫, 黒木 保博	日本保健科学学会誌(1880-0211)16巻2号 Page57-65(2013.09)
15	知的障害児の母親の育児負担感が心理的マルトリートメントに与える影響	李 仙恵(両備介護研究所), 朴 志先, 中嶋 和夫, 黒木 保博	社会福祉学(0911-0232)53巻4号 Page96-108(2013.02)
16	看護師が肢体不自由児に対する虐待の有無を判断する際に関連する要因	小原 千明(秋田県立医療療育センター), 佐々木 久長	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要(1884-0167)20巻2号 Page109-122(2012.10)
17	子どもの貧困と「重なり合う不利」 子ども虐待問題と自立援助ホームの調査結果を通して	松本 伊智朗(北海道大学)	社会保障研究(0387-3064)48巻1号 Page74-84(2012.06)
18	知的障害児の母親を対象とする心理的マルトリートメント測定尺度の開発	李 仙恵(両備介護研究所), 朴 志先, 中嶋 和夫, 黒木 保博	日本保健科学学会誌(1880-0211)14巻3号 Page144-154(2011.12)
19	障害のある乳幼児に不適切な養育が生じるプロセス 事例研究を通じて	一瀬 早百合(洗足こども短期大学)	社会福祉(0288-3058)51号 Page53-65(2011.03)
20	【重症心身障害児の看護 長期入所者を中心に】 【事例にみるケアの実際】 NICUから重症心身障害児施設への移行	奈須 康子, 丸山 るり子, 春山 康久	小児看護(0386-6289)34巻5号 Page654-660(2011.05)
21	乳児から小学生の子どもをもつ母親の虐待認識についての検討	横山 美江(大阪市立大学 大学院), 岡崎 綾乃, 杉本 昌子, 小田 照美, 塚本 聡子, 水上 健治, 茵 潤	日本公衆衛生雑誌(0546-1766)58巻1号 Page30-39(2011.01)
22	児童虐待と親のメンタルヘルス問題 児童福祉施設への量的調査にみるその実態と支援課題	松宮 透高(川崎医療福祉大学 医療福祉学部医療福祉学科), 井上 信次	厚生 の指標(0452-6104)57巻10号 Page6-12(2010.09)
23	成人期の発達障害と心身医療 知的に正常な発達障害がある母親への心身医療と発達障害児の養育環境	芳賀 彰子(九州大学 大学院医学研究院心身医学)	心身医学(0385-0307)50巻4号 Page293-302(2010.04)
24	【被虐待児へのケアと支援 看護師が、できる/すべき/知っておくべきこと】 知っておくべき知識 被虐待児へのケアと支援 ふだんのかかわりにおける看護の役割 早期発見から予防的支援へ	浅野 みどり(名古屋大学 医学部保健学科), 古澤 亜矢子	小児看護(0386-6289)32巻5号 Page524-531(2009.05)

令和元年（平成 31 年）度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業
障害福祉サービス等報酬における医療的ケア児の判定基準確立のための研究

表 2: 「子どもの状態」「親の認識と行為」「家庭の状況」の抽出された内容	
カテゴリー	サブカテゴリー
子どもの状態	
子どもの身体的状態	<p>医療的ケアがある</p> <p>経管栄養、気管切開、吸引、在宅酸素療法、人工呼吸療法</p> <p>超低出生体重児 NICU 入室歴</p> <p>低年齢である</p> <p>体重減少がある</p> <p>成長発達の停滞・遅滞がある</p> <p>定期的な受診の必要がない</p>
日常生活行動に関する問題	<p>睡眠に関する問題がある</p> <p>睡眠障害 不規則な睡眠リズム</p> <p>食事に関する問題がある</p> <p>強い偏食 摂食嚥下障害</p> <p>コミュニケーションに関する問題がある</p> <p>言語発達の遅れがある</p> <p>アイコンタクトがとりにくい</p> <p>認知発達の遅れがある</p> <p>反応性が低い</p> <p>特定の人としか関わりが持てない</p>
子どもの特徴的な行動・反応	<p>かんしゃくを起こしやすい</p> <p>こだわりが強い</p> <p>新しい環境や物事に慣れにくい</p> <p>物事に敏感に反応しやすい</p> <p>原因がわからないパニックを起こす</p> <p>表情が乏しい・笑わない</p> <p>気が散りやすい、多動である</p> <p>自傷行為、自己刺激がある</p> <p>他害・暴言・暴力がある</p>
母親の認識と行為	
母親の状況	<p>身体の不調がある</p> <p>健康問題がある</p> <p>発達障害・知的障害がある</p> <p>精神状態の不安定さがある</p> <p>神経症や心身症である（不安障害、うつなど）</p> <p>疲労／疲弊している</p> <p>不適切な身なりである</p> <p>コミュニケーションスキルの制約がある</p> <p>医療者などと会話が成り立たない</p> <p>育児について具体的に？話せない</p> <p>日常生活において時間の使用に制限がある</p> <p>自由に使える時間がない</p> <p>子どもの世話や家族役割の遂行に費やす時間が長い？</p>
母親の行動	<p>子どもに対し感情的な言動・口調がある（怒鳴るなど）</p> <p>子どもに細かい指示をする</p> <p>子どもに指示通りに行動することを強要する</p> <p>子どもへの身体的な暴力がある（たたくなど）</p>

Objective Factors of Maltreatment against Children with Disabilities in Japan: A Literature Review

Akiko ARAKI ¹⁾, Naho SATO ²⁾, Ryuko ITO ³⁾

1) Japanese Nursing Association, 2) Chiba University Graduate School of Nursing, JAPAN, 3) Juntendo University, JAPAN



BACKGROUND

Families raising children with disabilities face various challenges in parenting. Since maltreatment against children with disabilities poses a direct threat to their lives, it is crucial for professionals in primary care settings to assess and screen for signs associated with such abuse.

PURPOSE

To clarify objective factors for screening children with disabilities in Japan for maltreatment and related phenomena, and to prepare a draft checklist for use in outpatient wards.

METHOD

- We reviewed Japanese literature published from 2008 to 2018 and extracted from the Igaku-Chuo-Zasshi database. Keywords were children with disabilities; abuse; maltreatment; family; parenting problems; parenting difficulties; pregnancy and social risk factors; family at high risk, etc.
- 93 relevant articles were retrieved and analysed to extract factors related to inappropriate child rearing, such as abuse or neglect.

RESULTS

Objective factors related to abuse/maltreatment of a child with disabilities were extracted from 23 of the 93 articles.

Objective factors to screen for maltreatment against children with disabilities (Table)

Characteristics of children as screening indicators of maltreatment

- Children's characteristics were classified into physical conditions, problems in daily life behavior, and specific behavior/response.
- Problems in daily life behavior were characterized by factors like irregular sleep patterns, picky eating that affects the family's daily life, speech delay, delay in cognitive development, and limited relationships with a few specific people that cause difficulties between parent and child.
- Specific behaviour/response such as strong preferences or sensitivity in children with disabilities made parents difficult to engage with their child or establish a daily routine for them.

Maternal characteristics were classified into mothers' condition and behavior.

- Mothers' condition included health problems, physical distress, and developmental/intellectual disability. The rate of neglect is higher in those with mental problems such as depression or anxiety disorder.
- The other characteristics included restricted time availability as they spend a great deal of time on daily care or family responsibilities, and communication problems, including difficulties in establishing conversations with health professionals.
- Mothers' behavioral characteristics included aggressive behavior and speech, negative comments about child, excessive training of child, and medical neglect, including interruption or cancellation of follow-up examinations. The tendency to not request/refuse support was also included.

Characteristics of families as screening indicators of maltreatment

- Family characteristics were divided into family structure, family members' condition, and family members' relationship.
- Family members' condition included situations in which any other member/sibling needs care, and the spouse/partner has health problems.
- Family members' relationship included situations where the mother does not talk to or makes negative comments about other family members.

Table. Objective factors to screen for maltreatment against children with disabilities

Children		Mothers (cont'd)	
Physical condition	tube feeding, management of tracheostomy, suctioning, HOT, ventilator-dependent situation, born with very low birth weight, history of admission to a NICU Young children (infants or toddlers) Weight loss Failure to thrive, Developmental delay No necessity for regular consultation at clinic/hospital	Behaviour	Emotional speech/behaviour toward child (yelling, etc.) Giving child excessively detailed instructions Forcing a child to act as directed Physical abuse (hitting, etc.) Inappropriate feeding/nutrition Excessive exercise/training Unequal treatment of siblings Decision to quit regular follow-ups or cancel appointments without prior intimation Not providing essential health services such as vaccination Not allowing the child to go out Not allowing the child to go to a school/nursery Negative comments about child's disability Not requesting help/refusing support even when necessary
Problems in daily life behaviour	Problems related to sleeping-waking rhythm Sleeping disorder Irregular sleeping-waking pattern Problems related to eating behaviour Being particular about food, picky eating Ingesting/swallowing disorders Problems related to communication Speech delay Difficulty in having eye-contact Retardation of cognitive development Low or poor responsiveness Difficulty in interacting with people, except a few specific person (e.g. mother)	Family structure	Single parent due to divorce Step parents No marital relationship with partner Recent increase or decrease in the number of family members Existence of family members, other than the child with disability, who needs care Existence of another child that needs care Health problem of spouse/partner Economic restrictions Recent relocation
Specific behaviour/response due to illness/disability	Easily prone to throwing a tantrum Strong preference for a specific thing or situation Difficulty in getting used to new things and the environment Highly sensitive Getting panicky for no apparent reason Poor facial expressions, no smiling Easily distracted or hyperactive behaviour Self-harm/stimulatory behaviour Use of insulting or violent language with other people	Family condition	Unsupportive relationship between parents Spouse/partner's poor interest in other family members Mother does not talk to spouse/partner, or other family members Mother makes negative comments about spouse/partner, or other family members Mother is facing violence from spouse/partner
Mothers Condition	Physical distress Health problem Developmental/Intellectual disability Unstable mental condition Neurosis/Psychosomatic disorder (Anxiety disorder, Depression, etc.) Fatigue/appearance of being exhausted Inappropriate dressing/appearance Limited communication skills Inability to establish conversations with health professionals Inability to converse about parenting Restricted time usage in daily life Having no free time Spending long hours on child care and family responsibilities	Family relationship	

This study was supported by the Health Labor Sciences Research Grant (PI: Professor Masanori Tamura). The study for criteria establishment of medical care children

DISCUSSION and CONCLUSION

The tentative items that could be objective indicators of the characteristics of a child with disability and their family were identified.

Regarding child characteristics, it was suggested that problems in daily life behaviour and specific behaviour/response caused by disability might pose a risk even in the case of minor disabilities. While the obvious risk factors, namely disease, physical disability, medical care needs, young age, and developmental delay were indicated, the absence of periodic follow-up clinic visits may also be a risk.

Maternal health problems and fatigue influence parenting behaviors. In addition, both aggressiveness and passiveness were identified as mothers' behavioral characteristics. Mothers with these extreme behavioral characteristics were likely to have difficulties establishing appropriate relationships with others. Passiveness may lead to difficulties in receiving social support, isolating them further and increasing the risk of abuse/maltreatment.

These items would be useful for identifying the risks of abuse/maltreatment of children with disability in outpatient clinics, emergency rooms, and pre-hospital assessments. They can also lead to appropriate support after the assessment.



Akiko Araki, Naho Sato, Ryuko Ito, The Objective Factors of Maltreatment Against Children with Disabilities in Japan: The Literature Review (Poster), The 14th International Family Nursing Conference, Washington D.C. Aug. 13-16, 2019